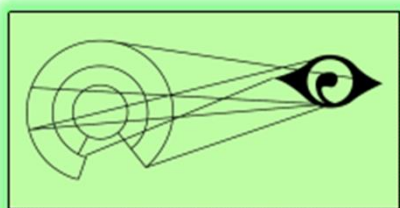


令和5年度（2023年度） 第3回共同研究推進委員会



期日 令和6年1月12日(金) 13:30～16:00

北海道教育研究所連盟
共同研究推進委員会

2

【開会】

本日の内容

【協議1】

- 研究内容1「全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」について

【協議2】

- 研究内容2「子どもの成長を支える連携・協働体制の構築」について

【連絡・閉会】

3

本日の内容

【協議１】

- 研究内容１「全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」について

【協議２】

- 研究内容２「子どもの成長を支える連携・協働体制の構築」について

【連絡・閉会】

4

【協議１】研究内容１について

第１回共同研究推進委員会の協議内容

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な
充実に向けた「授業のイメージ」

- ・ 子どもと教師でゴール（目的）が共有されている。
- ・ 子どもたちが主体的に学びに向かっている。
（子どもが見通しや目的意識をもっている。）
- ・ 子どもが自身の解決のために学びに向かい、状況に応じて協働的な学びを取り入れながら学んでいる。

→このような授業は

- ・ ICTの有効的な使い方を学ぶこと（学び方）
- ・ ICTのよさや強みを生かすこと ※いつでも、どこでも、誰でも
- ・ 目的や目指す姿を明確にすること
- ・ 周辺機器の環境整備をすること

5

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

第2回共同研究推進委員会の協議内容

- 持ち寄った授業構想の共通点や取り入れたいこと
 - ・子どもと教員間で、課題やゴール、単元（題材）計画、目指す子どもの姿等の「共有」をすること。
 - ・子どもが体験しながら、「なるほど」と納得したり、実感したりするような授業にすること。
 - ・子どもの問い「なぜ？」を引き出すような授業にすること。
- 収集する実践事例に記載したいこと
 - ・単元（題材）の「見通し」をどのようにもたせたらよいかについて
→「課題」や「ゴール」の設定の仕方、単元（題材）計画の提示の仕方など
 - ・「研究内容Ⅰ」に係る子どもの学びの姿や子どもの反応について
→実践で見られた子どもの様子が分かるように、写真や吹き出し等を活用
 - ・「研究内容Ⅰ」に係る子どもの学びの姿を引き出す教師の支援や働きかけ、環境の整備について
→子どもの学びを深めるための教師の役割に関することや工夫など

6

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

夏季所員学習会での振り返りから

- ・子どもが「自分(たち)で学び取る力」を育成するための授業観の転換
→「自分でやってみよう！」と意欲的になるような、子どもたちの「興味・関心」や問いを大事にする取組や、「学び取る学び」の具体を職員間で共有すること、学習スタイルを選択すること 等
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業をする上での土台づくり
→「心理的安全性が保たれた学級の雰囲気づくり」等の望ましい人間関係の構築や、小学校低学年からの基礎・基本の定着 等
- ・発達段階に応じて、端末の活用スキルを身に付けさせること（情報活用能力の育成）
→小学校段階で端末の使い方を身に付けておくことや、発達段階が上がっていく中で子どもに「委ねる」ヘシフトチェンジしていくこと 等

7

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

冬季所員学習会での振り返りから

- ・子どもを主語にすること、子どもが自分たちで学び取る経験を重ねること
- ・子どもの学びが成長していけるよう、教師主導の学びから子どもが学び取る学びへと、少しずつ子どもに委ねていくこと
- ・目指す「子どもの学びの姿」を明確にすること
- ・「協働的な学び」では、思考の過程を共有すること
- ・子どもたちのアウトプットが増えるような授業にしていくこと
- ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得や、子どもが安心して学習に取り組むための学習ルールづくり等、学びの土台を大事にすること
- ・ICTや1人1台端末を効果的に活用して学習スタイルを選択し、友達と情報を共有しながら考えたり、「協働」で情報を収集したりする中で学び方が変わっていくこと

8

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

- 授業において大事にしたいこと
 - ・子どもが「自分（たち）で学び取る」授業
→目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫
 - ・子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
→必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や
声かけの工夫
 - ・子どもが安心して、進んで取り組める授業
→学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

9

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

今年度の成果をまとめるに当たって（案）

○ 成果物として、道研連Webページに公開するもの

- （１）３回の共同研究推進委員会で協議された内容やその過程
 - ・事務局でまとめ、共同研究推進委員に内容を確認していただいた後、公開することを想定しています。
- （２）収集した実践事例
 - ・本日の協議の内容を踏まえて、加除修正いただいたものを公開することを想定しています。

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

第３回共同研究推進委員会【協議内容】

○ 実践事例の示し方について

- ①事例を、次の３つに分類することでよいか。
 - ア）単元の流れが分かるもの
 - イ）一単位時間の流れが分かるもの
 - ウ）子どもの学びの姿（学習活動）が分かるもの
- ②授業のイメージが伝わりやすいものとなっているか。
（記載されている要素の中で、必要なものと必要ないもの）
- ③事例を見たときに、自分の授業に取り入れやすいか。
（知りたい情報が得られるか） 等

【協議Ⅰ】 研究内容Ⅰについて

協議Ⅰの流れ

- 収集した「**実践事例**」の交流（25分）1人4分程度
※収集した「実践事例」の**特徴やよさ**（どの視点が分かりやすいか）、実践する中で**苦労した点**や**まとめる際に工夫したこと**等

【協議】（25分）

- 収集した「**実践事例**」の**特徴やよさの共有**
 - ア) 単元の流れが分かるもの
 - イ) 一単位時間の流れが分かるもの
 - ウ) 子どもの学びの姿（学習活動）が分かるもの
- **次年度以降の研究の進め方**について
 - ・ 今年度の成果として、加盟機関に共有するもの
 - ・ 次年度以降の進め方 ※推進計画を基に協議

- **全体共有（約15分）**
 - ・ 各グループから、協議内容の共有

実践を積み重ね、授業者の声も含めた資料を作成し、事例をブラッシュアップ！

ブレイクアウト
50分

12

本日の内容

【協議Ⅰ】

- 研究内容Ⅰ「全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」について

【協議2】

- 研究内容2「子どもの成長を支える連携・協働体制の構築」について

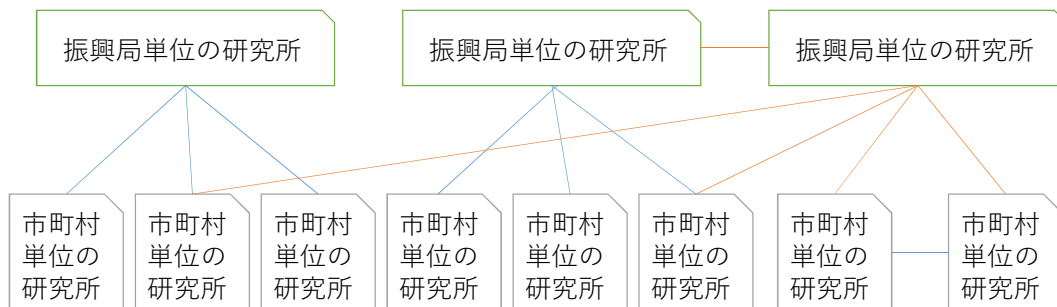
【連絡・閉会】

15

【協議 2】 研究内容 2 について

すでに行われている連携された取組

- 各地区の研究所連連絡協議会等での取組
- 道研との地域連携



16

【協議 2】 研究内容 2 について

協議 2 の流れ

- できそうな「**連携・協働**」を交流（20分）
 - ・できそうな「連携・協働」の内容
 - ・実践した際の期待される効果と大変だと思われること
 - ※1人3分程度で発表
- 【協議】（15分）
 - 各教育研究所・センターとして、**実現可能なことや協力できること**
 - ・事業計画を変更することなく取り組めることや融通がききそうな範囲で取り組めることの共有
- 全体共有（約7分）
 - ・各グループから、協議内容の共有

ブレイクアウト
35分

17

本日の内容

【協議1】

- 研究内容1「全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」について

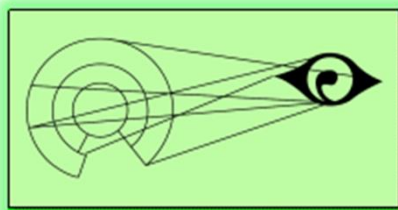
【協議2】

- 研究内容2「子どもの成長を支える連携・協働体制の構築」について

【連絡・閉会】

19

令和5年度（2023年度） 第3回共同研究推進委員会



期日 令和6年1月12日(金) 13:30～16:00

**北海道教育研究所連盟
共同研究推進委員会**

22